



取材日:平成25年8月7日(水)

取材先:リプロ株式会社(三重県四日市市)

レポーター名:三重大学人文学部法律経済学科3年 張山卓耶

“人を育てる”リプロ(株)のCSR活動

<伝えたいこと>

● リプロ(株)のCSR活動

近年、企業の社会的責任(CSR)がより重視され、社会貢献活動(CSR活動)は、企業が担うべき役割の一つであると考えられている。三重県四日市市に位置する温泉施設「ユーユー・カイカン」を運営するリプロ株式会社も、CSR活動に力を入れている企業の一つである。リプロが行うCSR活動は、“人を育てる”ということに重点を置いている。では、どのような人々を、こういった形で育成していくのだろうか。

● 障がい者を育てる 農業を通して

まず紹介するのが、農業を通じた障がい者の育成である。

平成21年11月、三重県での障がい者の雇用率が全国最下位であるという問題(平成21年当時)を解決するために、ユーユーハウス株式会社を設立し、しいたけの栽培施設を造った。そこで、障がい者の方々を雇用し、彼らによるしいたけの栽培が行われている。現在では、しいたけだけでなく、イチゴやメロンなどの栽培も行われている。収穫されたしいたけなどは、ユーユー・カイカンの施設内や県内の市場などで販売され、それらを地域の人々に食べてもらうことで、「食べるCSR」という好循環を生み出すことを目指している。

このユーユーハウス事業は、障がい者を雇用するということだけが目的ではない。農作物の栽培を通して、労働者として育成しているのである。さらに、最終的な目標として、障がい者が家庭で農作物を育て、それを家族に食べてもらうということを目指している。つまり、農業を通して、障がい者の自立支援を行っているのである。リプロの現社長・佐野武さんは、障がい者の職員が仕事を通して成長していくことに喜びを感じるという。

● 子どもを育てる サッカーを通して

次に紹介するのが、サッカーを通じた子どもの育成である。

ユーユー・カイカンに併設されたフットサルコートにて、NASPA サッカースクールが開かれて

いる。ここでは、リプロが経営するフットサルチーム・NASPA 四日市のメンバーがコーチを務め、子どもたちにサッカーを教えている。

取材当時、子どもたちがとても楽しそうに練習に励んでいる姿や、それを温かく見守る保護者の姿が印象に残った。コーチも終始笑顔で指導にあたっており、楽しみながらサッカーを学んでいくという様子がかがえた。しかし、NASPA サッカースクールは、サッカーを楽しく学べる場所であるというだけではない。このスクール独自の「4 つの約束」(挨拶をきちんとする・目を見て話す・お互いに助け合う・時間を大切にすること)を通して、人としても成長することができるのである。NASPA サッカースクールには、この「約束」を守ることがかっこいいという空気ができており、子どもたちは皆しっかり守っているとのことである。

NASPA サッカースクールは、サッカー及び「約束」を通して、子どもたちが人として成長していくことを目指しており、サッカーを学ぶ場であるというだけでなく、地域の人々にとっての子育て支援の場となっているのである。

● おわりに

以上、リプロ(株)のCSR 活動について紹介した。ここで紹介した以外にも、家族を対象としたイベントや、地域の人々が触れ合えるイベントなど、様々な活動が行われている。

しかしながら、CSR とビジネスを両立するのは容易ではなく、決して余裕があるわけではないと佐野社長は語っていた。それでも積極的な活動をリプロは行っており、地域の人々のために貢献したいという深い郷土愛があることがわかった。

< 感じたこと >

今回の取材を通して、少し残念に感じたことは、CSR 活動に直接関わらない社員の人達が、地域貢献の実感をあまり持てていないということでした。上記のような素晴らしい活動によって地域に貢献するということは、社員にとっても誇りとなりうるものだと思います。なので、より多くの社員が関われるような取り組みを行っていくべきではないでしょうかと思います。特に、社員と顧客の両方の家族が関われるイベントなどは、顧客だけでなく社員の満足度を高めることにも繋がると考えられます。

また、「社会貢献」と「ビジネス」の両立は簡単でないということが改めてわかりました。しかし、それを言い訳にして消極的になることなく、積極的に様々な活動に取り組むリプロは素晴らしい会社であると思いました。このような会社が増えればいいなと強く思います。これからもリプロ(株)には、深い郷土愛と「三方良し」の精神を忘れずに、様々な活動に取り組んでほしいと思っています。